



ピカチュー号



第199号

発行日：令和2年8月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院

院内情報委員会

診察室から 脳動脈瘤 検査

院長 福田 雄高

先月号（ハム太郎号）では、くも膜下出血は、その多くは脳にある動脈瘤が破れてしまう病気であること、また一旦破れてしまうと重篤な状態に陥る、亡くられる方も一定の確率で存在するという内容でした。そこで、動脈瘤を調べるにはどんな検査があるのでしょうか。

動脈瘤を調べる際に、まず最も体に影響がない検査といえば、頭部 MRI 検査になります。磁力と電磁波の力によって、体に負担を与えずに動脈瘤の有無を確認することができます。但し、体内に金属がある方や、ペースメーカー留置後の方などは、検査ができないことがあります。また 20-30 分程度狭い空間に滞在しなければならず、閉所が苦手な方はできないこともあります。

次に動脈瘤を調べる方法としては、点滴（静脈）から造影剤を投与して、CT を撮影する検査（造影 CT 検査）があります。利点としては、MRI よりも詳細に動脈瘤が判定できること、また比較的短時間で撮影自体は終わることです。しかし欠点としては、まず CT 撮影は X 線を投射しますので、X 線による被曝という問題があります。また造影剤投与により、時に副作用（嘔気、蕁麻疹、発汗、稀に血圧低下など）があり、腎機能障害がある方には腎機能が悪くなる可能性がある為、検査ができないこともあります。

更に精密に動脈瘤を調べる方法としては、カテーテル検査（脳血管撮影）があります。今度は動脈から造影剤を投与して、そこに X 線を投射することでより詳しく動脈瘤を調べることができます。脳に流れる血流をダイナミックに確認することで、より多くの情報を得ることができます。但し、X 線による被曝、造影剤を使用すること、血管内にカテーテルをすすめていくことで、稀に脳梗塞の危険性があることなど、危険性は MRI、造影 CT と比較して高くなります。

検査は危険性が低いものから選択して行っていくのが通常です。動脈瘤の存在を疑った際には、まずは頭部 MRI 精査は重要な検査と考えます。但しわかりにくい動脈瘤などは造影 CT の出番になり、根治治療を検討する際はカテーテル検査が重要になることもあります。

（つづく 次回 動脈瘤の治療）



広い空に薄まってウィルスも
ころっとなくなってほしいものです

第1回医療安全対策委員会 院内研修会を開催しました

◆◆ 内容 ◆◆

医療安全対策委員会 J, S

今回のテーマは

『インシデント・アクシデントレポートについて』です。

このレポートは、仕事中に起きた事故に関する報告書になります。

私達医療従事者だけではなくいろいろな職種でこのレポートは

活用されています。何か事故が起こった時にはこの報告書を

作成し、当院では職員全員で回覧して周知徹底する事で同じ事故が起きないように努めています。また報告書を書く事で自己の振り返りを行っています。当院の

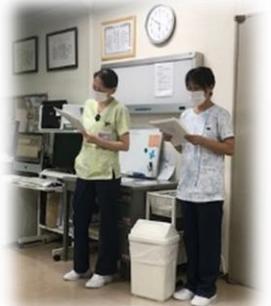
現状として、レポートの記載・事故の原因・今後の対策が不十分のため同じよう

な事故に繋がっているのではないかと考え、研修会ではレポートの必要性と基本

的な書き方について事例などを通し説明を実施しました。

今後、この研修で学んだ事を活かして患者さんに安心して安全な医療が

提供出来るようレポートを有効に活用していけたらと思います。



◆◆ 感想 ◆◆

前にも分類基準について勉強しましたが、忘れてしまっている所があり、改めて勉強する事ができよかったです。

A.H

インシデント・アクシデントレポートの悪い例と修正後が見れて解りやすく、勉強になりました。

今後、レポートの記入時に注意点をふまえて記入したいと思います。

M.K



毎月リスク委員会メンバーでインシデント・アクシデントの報告書提出分の検討会をしていますが、書き方が不十分の方がいくつかあります。この勉強会で得た書き方を再度復習していければ良いと思います。それと委員会での検討した報告を再度見直して事故防止に役立ててほしいと思います。

リスクメンバーH.N

介護保険～訪問系サービスについて～

地域連携室 社会福祉士 A, M



今回は介護保険のサービスのうち、ご自宅など居宅で利用できるサービスについてご紹介します。

「介護保険べんり帳」を参考にしていますので、この冊子をお持ちの方は、読んでみてください。市町の高齢者福祉の窓口等で配布されていますので、ご希望の方は市町の窓口にご相談ください。

【ご自宅など居所で受けられるサービス】

訪問介護（要支援の認定のかたは訪問型サービス）

このサービスは、訪問介護事業所のスタッフがご自宅等に訪問してサービスを提供します。



訪問介護スタッフ(ヘルパーさん)が掃除、洗濯、買い物等の生活援助や入浴介助やおむつ交換等の身体介護を行います。生活を維持するために最低限必要な支援をします。庭の草取りや窓拭き、大掃除、病院受診の付添は行いません。また、依頼できる内容も利用者が置かれた環境によって異なりますので、ケアマネージャーと相談しながら決定します。原則、決まった曜日と時間にヘルパーさんが訪問します。費用は利用回数や援助内容で決まり、利用した翌月に事業所に支払います。

訪問入浴介護

このサービスは、ご自宅の浴室で入浴できない方が利用するサービスです。看護師1名、介護士2名の3人で1チームとして訪問します。組み立て式の浴槽を持参し、組み立て、お湯はり、入浴介助、更衣介助、浴槽の撤去までの一連の作業を約1時間で行います。



患者さまの声

スタッフの皆様へ

温かいお言葉、スマホで保存しました。3日間だけでしたが、大変お世話になりました。美味しい食事でもとても有難かったです。メニュー表をいただいたのも今後の食生活の参考にします。食器を暖かくしていただいた心遣い、しかし、冷たい物は冷たく提供されて、、、本当に細やかなお心遣いに感謝申し上げます。皆様、御身体大切に、患者の為にお仕事頑張ってください。

女性Fさん



入院したことにより、今までの自分をふり返り、私の心の勉強もさせていただきました。(元気がでました♪)

本当にありがとうございました。感謝 感謝 感謝

女性Tさん

2ヶ月はとても長かったです。院長先生副院長で主治医の大園先生、全ての病院スタッフの方々、とても気さくで優しく、温かったので、治療に専念できました。

特に「安静の仕方」が分からずに困っていた際は、看護師のKさんが大園先生に話をしていただき「低髄液圧症候群」を乗り越える為にと題したレジュメを作っていただき、とても助かりました。繊細で常に緊張感のある業務だと思いますが、今後とも皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。私も病気と向き合いながら頑張ります。

男性Nさん



お世話になりました。美味しい料理が何より楽しみでした。有難うございました。

女性Kさん

診療のお知らせ

お盆期間中も診療しております。

